

## 「卓越大学院プログラム」中間評価結果

機関名	筑波大学	整理番号	1804
プログラム名称	ヒューマニクス学位プログラム		
プログラム責任者	加藤 光保	プログラムコーディネーター	柳沢 正史

### (評価決定後公表)

#### (総括評価)

- S:計画を超えた取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を十分に達成することが期待できる。
- A:計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。
- B:一部で計画と同等又はそれ以上の取組も見られるものの、計画をやや下回る取組もあり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。
- C:取組に遅れが見られ、一部で十分な成果を得られる見込みがない等、本事業の目的を達成するために当初計画の縮小等の見直しを行う必要がある。見直し後の計画に応じて補助金額の減額が妥当と判断される。
- D:取組に遅れが見られ、総じて計画を下回る取組であり、支援を打ち切ることが必要である。

#### [コメント]

大学院全体の改革を実現する卓越した学位プログラムの確立については、本プログラムの完全ダブルメンター制、リバースメンター制及び学位プログラム制等を組み込んで、8研究科・85専攻を3学術院・6研究群に改組再編するなど大学院全体の改革が順調に進められており高く評価できる。

修了者の高度な「知のプロフェッショナル」としての成長及び活躍の実現性については、各種学会での受賞件数や査読付き論文数も多く、プログラム履修生からも本プログラムが効果的に実施されていることや将来のキャリアパスについての考えを確認できたことなどから、今後も継続的に学生への行き届いたケアを実施することにより、修了者の「知のプロフェッショナル」としての成長と将来の活躍が十分に期待される。

高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制の整備については、生命医科学と理・工・情報学の両研究分野の研究指導体制が整えられていること、完全ダブルメンター制やリバースメンター制が構築され機能していることなどから、高度な「知のプロフェッショナル」を養成する指導体制は十分に整備されているものと評価できる。

優秀な学生の獲得については、サマーリサーチプログラム、Early Exposure Programの開催及びオンライン入試の実施等の努力により、国内外からの出願状況は良好であり、留学生約40%、社会人経験者約20%と多様な背景を持つ優秀な学生を獲得してきていることから、今後も引き続き優秀な学生の獲得が期待される。

世界に通用する確かな質保証システムについては、オンライン達成度評価システムが構築され機能していること、学位審査は全学学位論文審査委員会の下で行われることなどから、学際領域における高度な「知のプロフェッショナル」としての質保証システムが構築されているものと評価できる。

事業の継続・発展については、100名規模のメンター教員による研究指導体制が整え

られていること、毎月開催される運営委員会によりP D C Aサイクルを機能させるシステムを構築していること、外部資金獲得の計画を順調に進めていること、などから本プログラムの継続・発展が期待される。